

観自在



可愛いお稚児さん達との記念撮影です。
仏様と縁を結び、きっと良い子になるでしょう。

弘長寺寺報
第八号
平成一六年
一月

晋山式典

華やかに円成

えんじょう

弘長寺住職 森田裕光

明けましておめでとうございます。

昨秋十月十九日(日)、仏天の御加護を賜り、これ以上ない快晴。しかも稚児行列は三十四名ものお稚児さんの参加を得て、四流幡・梅花講・稚児・護持会役員・僧侶・一般檀家と続き、華やかな行列となりました。

本当は大聖東堂老師の退董式を派手に、この晋山式は地味にと思っていたのですが、これだけお稚児さんが集まるとそれは全く無理な話でございます。

主役であるはずの私も、お稚児さんの前ではただの通行人みたいなものでした。

少子化が叫ばれる現在、こんなにあくさんお集まりいただき、感謝の気持ちで一杯です。

安下処(晋山)として新しくお寺に入る僧が旅支度を解き、お寺に入山(晋山)する準備をする宿は、護持会長武田民三氏のお宅でお世話になりました。

武田邸において、五名の随喜僧と先祖供養読経の後、梅湯・茶の展待を受け、武田氏には安下処として最高の礼を尽くしていただきました。

又、護持会役員の方々や「十和の会」メンバーとその奥様方には、労を厭わずに準備の段階から当日、そして翌日の後かたづけまで大変お世話になり、本当に有り難うございました。

そしてお檀家の皆様方、この景気低迷の中で多大なるご負担を頂き、お陰様で無事円成出来ましたこと、紙面をお借りして深々なる謝意を表する次第でございます。

誠に誠に有り難うございました。

新年のご挨拶

弘長寺護持会
会長 武田民三

新年お目出度うござい
す。

檀家の皆様には御家族
お揃いで清々しい甲申の新
春をお迎えになられ、心か
らお慶びを申し上げます。

昨年は金宝山弘長寺にお
かれては極めて重要な退董
と晋山の両式典を厳修なさ
れ、我々檀信徒にとりまし
ても意義深い歳でありまし
た。

さて、既に弘長寺寺報第
六号(平成十五年八月発行)
で、方丈様が「阿弥陀堂建
立に対する考え方」と題し
て方針をお述べいただいた
います。本年は檀家の皆
様のご同意を頂き、阿弥陀
堂の再建を決断する歳とし
たいものと思つて居ります。
現在阿弥陀堂には檀家皆
様の御先祖をお祀りする二
百九十余の金位牌が安置さ
れております。(檀家総数

三百二十二戸の約九十%)

何せ古い建物であり、外
から雨や雪が吹き込むのを
防ぐための応急処置、或い
は倒壊防止の支柱を四ヶ所
設置致しました。

昨年十一月十五日開催の
護持会委員会に於きまして
も大筋で合意を得たところ
であります。

これから地区委員を通じ
て檀家皆様のご理解・ご賛
同を頂くための説明会を設
定してまいる考えでおりま
す。

何卒よろしくお願い申し
上げます。

今年が檀家皆様にとりま
して幸多い年でありますよ
う、ご祈念申し上げます。
ご挨拶といたします。

合掌



お知らせ

お願い

●ご法事でお寺参りをされた時に
は、必ず阿弥陀堂にお参りを致
します。
(ご事情でお位牌がない方はご
遠慮させて頂いております)
阿弥陀堂に入った途端にご親戚
の方々から「オーツ」という驚
きの声が上がります。
それがもうです。
私が知っている限りでも、金塗
りの総位牌がこれだけ揃ったお
寺はないからです。

●阿弥陀堂にはくれぐれもご注意
下さい。
住職が暮れに阿弥陀様のお身拭
い(お体を浄巾で拭つて清める
こと)をする為に、台座の下
段(大きな総檀中位牌が置いて
ある段)に上がったとたんに座
が抜けて足がズボツと落ち、も
う少しで下まで転げ落ちるとこ
ろでした。
幸い、軽い打撲と擦り傷ですみ
ましたが、阿弥陀様の膝元にあつ
た「お不動様」に手が触れたら
しく、落ちて壊れてしまいました
た。

●身代わりになつていただいた気
がして思わず合掌です。
抜けた座板を見ましたら、表面
は全く分らないのですが、中
は虫食いでスカスカでした。
別の板を応急処置で置きました
が、二度とお身拭いする気には
なりません。こういう具合だと
阿弥陀様の台座板も危ないよう
な気がします。こんな台座の上
にお座り頂いていて申し訳ない
気持ちになりました。
●今年の盆棚経は、弘長寺地区屋

号深谷、武田武三氏宅から開始
致します。
弘長寺残り↓鏡↓浜↓小松とい
う順で廻ります。

●東堂様は一月四日、昼食途中で
食べ物のがどにつまり、救急車
で日赤に運ばれました。食べ物
が肺に入り、肺炎を起こしてい
ます。現在検査中ですが、医師
の説明では今後は呼吸不全にな
る可能性が高く、口からの食事
は難しいと宣告されました。痛々
しいのですが、胃に穴を開けて
そこへ流し込むのが一番安全な
のだそうです。

●お仏壇・墓石・位牌を新しく建
立された時は、入魂(開眼)供
養を致します。
仏具(花立、線香立等)は開眼
の必要はありません。
よくお忘れになるのが、掛け軸
の開眼です。
入魂されていない掛け軸はただ
の絵や文字にすぎません。
開眼供養をされることをお奨め
いたします。

●抜魂・入魂供養の時に必要なも
のは、
☆お墓の場合：必ずお墓を掃除
してお花を立てておくこと。
新しい筆一本・一枚のお皿
の半分に塩(抜魂時は大皿)、
もう半分に洗米・コップ一ヶ
・各石塔に中折りを追って敷
き、その上にお菓子、果物
少々・線香(抜魂時は長め
の線香多め)・ローソク・
手桶に水
☆仏壇・掛け軸・位牌の場合：
お墓の場合と同様ですが(手
桶の水は要らない)、その上
に五つ組の仏膳をご用意下さ
い。

晋山式典祝辞

弘長寺護持会

会長 武田民三

金宝山弘長寺一八世大心裕光方丈様の晋山式に当たり、弘長寺護持会を代表し一言お祝いを申し上げます。

裕光方丈様には両大本山ご専使様を初め、教区長様、諸山ご老師様方のご法愛のもと、厳肅のうち、ここに当山の法燈をお継ぎ頂きましたことは誠にありがたく、またお目出度い限りであり、檀信徒一同心よりお慶びを申し上げます。

私ども檀家は、此のよ
うな素晴らしい勝縁を迎
えることを心から喜び、
唯々感謝の念で一杯であ

ります。

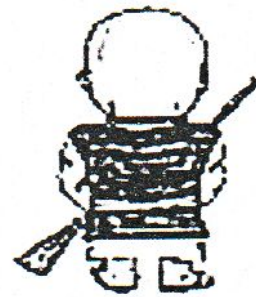
裕光方丈様は昭和五十九年から六十一年に亘り、京都宇治市の興聖寺にて、厳しい修行をなさり、昭和六十年当山のご養子としてご入山、十七世大聖老師様のお弟子となられました。

その後、宗務庁布教師養成所、更には梅花師範養成所にて引き続き修行をお続けになり、昭和六十三年以来、宗務所布教師或いは梅花流師範としてご指導頂いているところであります。



一方、地域社会でも多方面に亘りご貢献になり、平成四年から三ヶ年間、宍道町民生児童委員を、更

には平成六年より六年間の長きにわたり、宍道町教育委員としてご活躍になりました。



平成十四年九月には曹洞宗島根県第二宗務所に就任になり、布教・教化の先頭に立って、ご教導頂いており、我々弘長寺檀徒の誇りとする処であります。

これより先、我々檀信徒は大心裕光方丈様を良き導師（みちびきて）としてお慕い申し上げます、正法に巡り逢えた喜びに感謝しつつ、檀家の勤めで

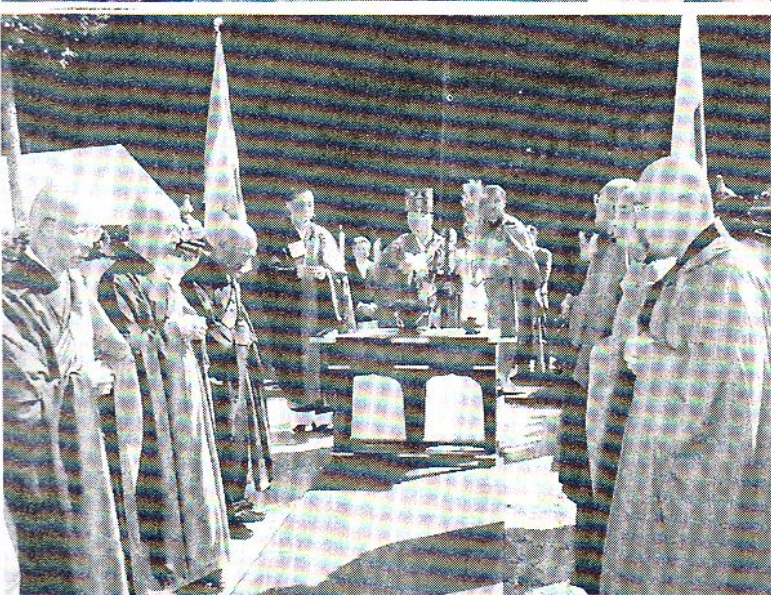
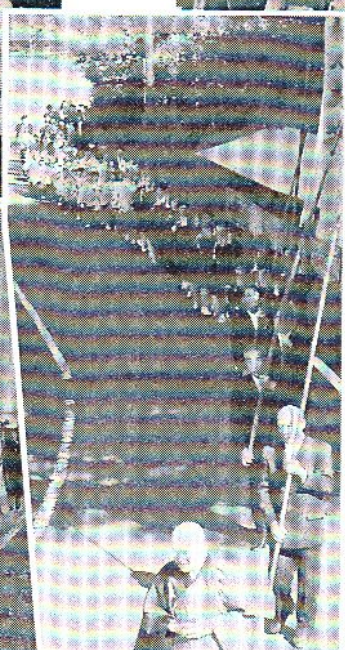
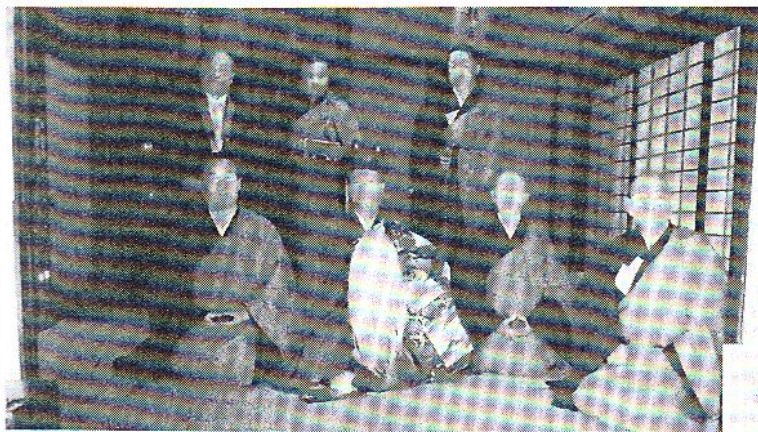
あります菩提寺の護持隆昌を期すると共に、それぞれの家庭が朝な夕なに信仰生活の実践を心がけ、互いに精進を致して行くことをお誓い申し上げます。

終わりに、檀家各位のご理解とご協力を賜り、晴れがましくも莊重な晋山の儀式とする事が出来ました事を、茲に役員一同衷心より感謝を申し上げます。

以上誠に簡単粗辞ではありますが、祝辞とさせていただきます。



晋山式写真アラカルト



子供に どう答えますか？

(人を殺して悪いのか)

先日お檀家のある方がつぶやかれました。「北朝鮮が核兵器を持つのはダメで、何でアメリカはいいんだらう？」

そうですね、よく考えれば不公平な話です。核を持つ国はたくさんあります。アメリカは、全世界から核が無くなれば自分もなくすつもりでいるのかもしれないが、今日の友も明日は敵に回って新たな冷戦を迎えるかもしれませんし、これだけでも敵が多ければ核廃絶の日が来る可能性は絶望的です。



芸能人の「てつ&とも」ではないですが、「何でだろう」と思うことはたくさんあります。

「人を殺すのは悪いことなのか」という若者が発した論争がありました。

大人は「何をバカなことをいつてるんだ。そんなことは当たり前ではないか」とは思っている。でも、論理的に分かり易く子供に説明をするという段になると、なかなか決定打がない。

これも宗教評論家のひろさちや先生が何かの本に書いておられたのですが、「子供がそういう疑問を持つ方が正しいのかもしれない。法律ではどこにも人殺しが悪いことだとは書いてない。ある条件のもとで、こういう罪を犯したらこういう罰を与える、と書いてあるだけだ。

逆にある条件のもとでは人を殺すことを認めている。

例えば戦争という条件のもとでは、(イラク自衛隊派遣もその可能性が出てきました。)正当防衛という名目で人殺しが必要だから認めている。

死刑もそうです。臓器移植もそうです。

他の命を救うという名目で、生きたままの臓器が必要だから脳死状態のまま、生きながら殺すことを認めようとしています。

すことを認めようとしています。

つまり社会は必要か不必要かで判断を下して、決して善悪を基準にしているのではない。決定的に善悪をいうのは宗教なのだが、学校はもとより家庭でも宗教教育がなされていないのだから、そういう疑問をもつ子供が出て来ても不思議ではない。



では仏教の考え方はどうでしょう。

仏教は仏の教えでもあるが、仏になるための教えでもあります。

仏様のような完全な人格を目指して精進・修行するのが最大の善と教えています。

そのために守るべき戒律があり、一番最初に一番重要な不殺生戒(生あるものの命を奪ってはならない)があります。それを破ることは、「仏を目

指すのを放棄する行為」であり最重要戒律を破るのだから最悪とみなしています。それが一点。

そしてもう一点です、法華経では私たちは皆仏の子であると説かれています。

そうすると人を殺すことは仏の子を殺すということです。私たちがだって我が子を殺されれば悲しい：だから仏様も自分の子を殺されれば悲しまれる。仏を悲しませるのは悪です。仏の子を殺すということは、自分も仏の子であることを放棄する行為であり、仏様を信じようとしないう行為：だから悪ということです。

でも宗教教育の体験のない子供に、このことを理解してもらうのは至難の業かもしれません。

